

九州沖縄農研のうごき

平成30年度南西諸島農業研究連絡会議

この会議は南西諸島における研究推進や成果の広報普及を目的とし、平成30年7月4日に沖縄県糸満市の沖縄県農業研究センターで開催されました。最初に、所内関係者による南西諸島関連24課題の検討が行われ、その後、沖縄県の農業関係者（60名程度）が参加して、「沖縄におけるそば普及の現状と課題」、「飼料用サトウキビ新品種『やえのうしえ』の紹介」、「石垣島における島内バイオマスを利活用したサトウキビ栽培」の3課題について、報告および質疑応答が行われました。

翌5日は、乳牛用の飼料として九州沖縄農業研究センターが育成した「しまのうしえ」等のケングラス（飼料用サトウキビ）を栽培している南城市の農家を訪問しました。雨混じりの天気のため、牛舎の中で「しまのうしえ」と「やえのうしえ」の栽培や飼料としての特性についての意見交換が行われ、その後ケ-

産学連携コーディネーター 田坂幸平

ングラスの生育状況を視察しました。続いて訪問した(株)ナンポーの港町工場では、紅芋タルトやちんすこうの生産工程を見学するとともに、原料イモの品種や仕入れなどについてお話を伺いました。

南西諸島にはさまざまな特産品がありますが、農研機構の成果がこれらの生産に貢献していることを感じ、更なる研究の発展に向けて一同思いを強くしました。



ケングラスを利用している農家との意見交換風景

平成30年度九州沖縄地域マッチングフォーラム

産学連携コーディネーター 奥野成倫



東海大学
熊本キャンパス2号館

平成30年9月11日に熊本市の東海大学熊本キャンパスにおいて、標記マッチングフォーラムを開催しました。この催しは、農業現場のニーズを踏まえた研究の推進と研究成果の現場への迅速な普及の促進を目的とし、生産者、行政・普及関係者、企業関係者、研究者等が双方向の意見交換を行

う場です。農林水産省、農研機構九州沖縄農業研究センターおよび九州農業試験研究機関協議会による主催で、九州沖縄の8県を巡り毎年開催されています。

今回は「多様な土地利用型農業の展開」をテーマとし、飼料用米、いぐさ、夏期湛水および加工用ハウレンソウについて4つ研究成果の発表が行われました。どの演題においても、公設試験研究機関（県の農業試験場等）と現場に技術導入している生産団体等がペア

になり（合計8名の演者）、それぞれの立場から研究内容と導入事例を立体的に紹介しました。すべての演者がそろっての総合討論も行いました。

パネル展示・技術相談では、東海大学からの展示も併せて52件の成果を展示し、担当者による説明が行われるとともに、参加者との活発な議論が展開されました。

また、今回は上記の内容に加え、農林水産省からスマート農業の実現に向けた施策について最新情報が提供され、質疑も行われました。

ご来場くださった200名の皆様、協賛および後援をいただいた団体等の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。平成31年度は長崎県での開催を予定しています。



研究成果発表



パネル展示会場